

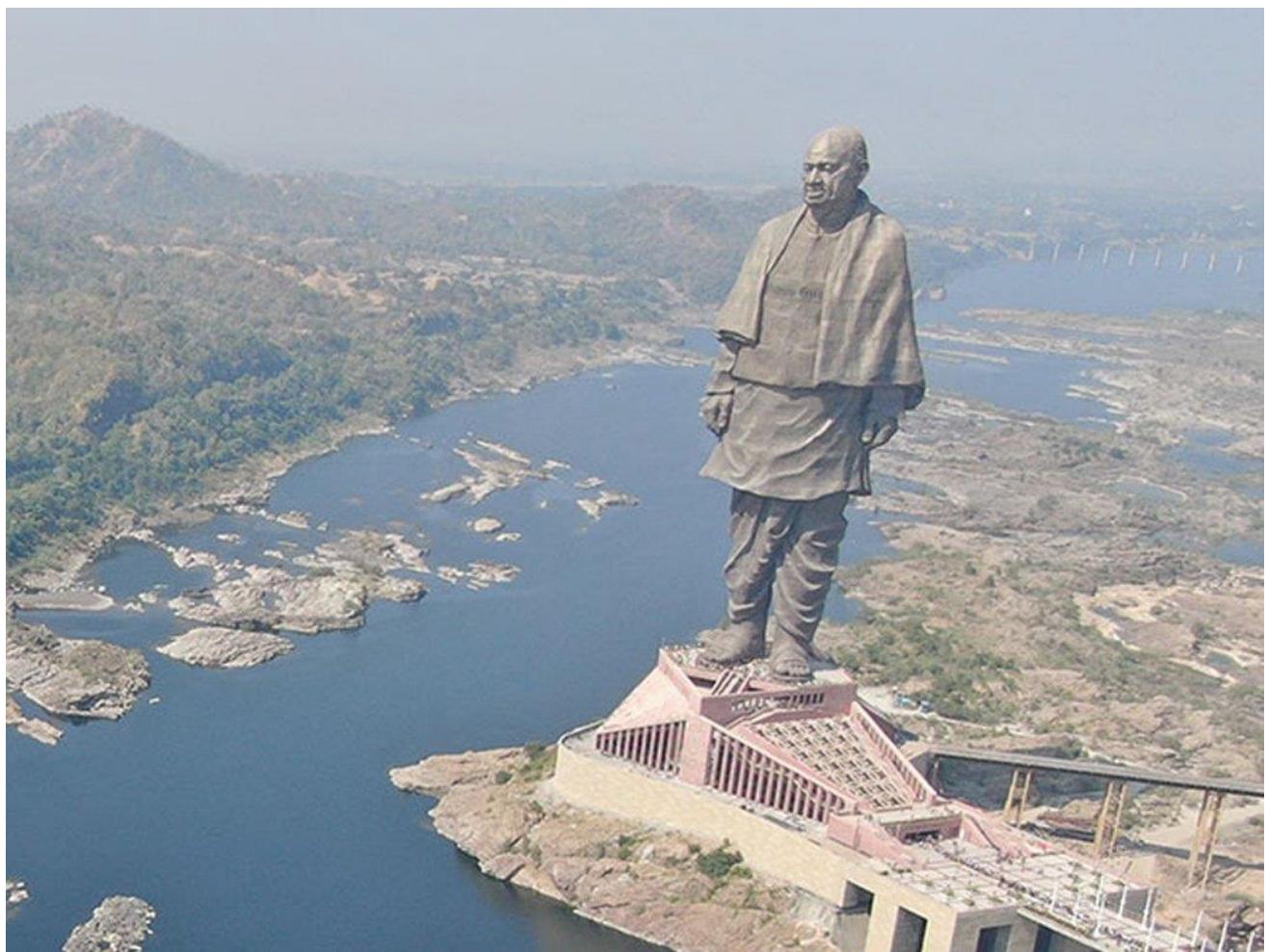
高い！デカい！カッコいい！世界の驚異的な「巨像」

【地球の歩き方】

2021.8.22 5:05

『[地球の歩き方](#)』は1979年から発行している、日本でもっとも発行タイトルが多い海外旅行ガイドブック（2019年10月現在119タイトル）。新鮮な現地取材データが、旅人をしっかりと支えます。見どころや町歩きの解説は、詳細な地図と美しい写真で完全サポート。歴史や文化に関するコラムも随所に織り込まれています。

世界には、想像をはるかに超えた巨像がある！



海外旅行ガイドブック [『地球の歩き方』](#) から、シリーズ8冊目となる『世界のすごい巨像』は、タイトル通り、世界各地に立てられている巨大な像を網羅した一冊。その中から、よりすぐりの巨像をご紹介します！（地球の歩き方書籍編集部）

アジアの巨像：仏様も偉人もみな巨大化

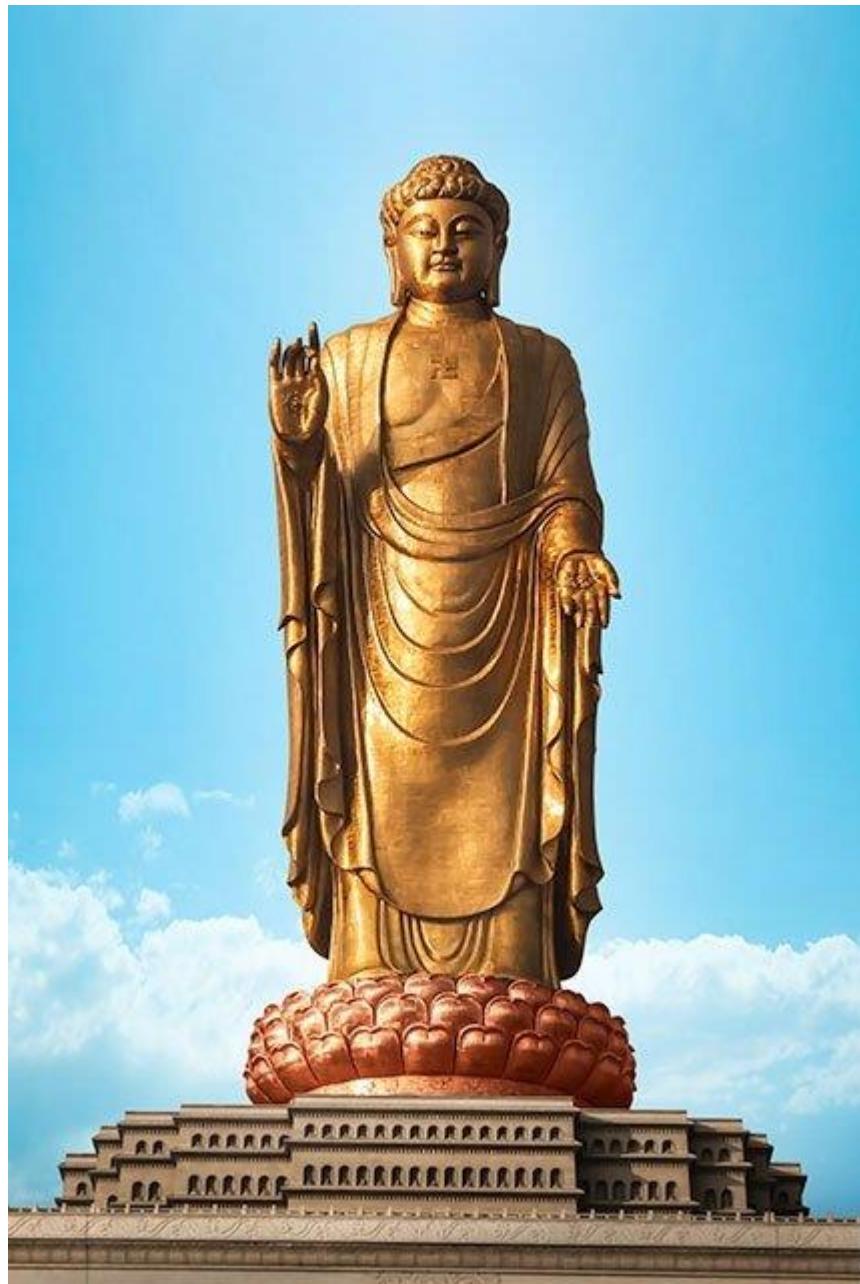


インドにある世界最大の巨像「統一の像」は、高さなんと 240m！

世界の中でもアジアは巨像の多い地域。本体の高さが 100m を超える巨像は、アジアにしかありません。

東京都庁とほぼ同じ高さ 240m の巨像があるのはインド。野生動物保護区にも指定された緑豊かな公園内、ゆったり流れる広い川のほとりに、周囲とのサイズ的な調和を完全に無視して屹立しています。高さ 135m の展望台までエレベーターで上がると、目の荒い格子がはまつた窓から周囲の景色も堪能できます。像のモデルは、日本人には馴染みの薄いサルダール・ヴァッラブバーイ・パテール（誰？）。インドがイギリスから独立する際に、562 もの藩王国をパキスタンではなくインドへ帰属させた英雄として、人気が高い政治家です。

中国は、インドと並ぶ世界の巨像大国



高さ 208m の世界で最も高い仏像は中国にある

中国は、インドと並ぶ世界の巨像大国。100m を超える像だけでも 3 カ所、「統一の像」が完成するまで高さ世界一だった巨像もあり、物量でインドをしのぎます。

世界第二位の高さがある巨像は、古都洛陽近くの山中に立つ「魯山大仏」。全体の高さは 208m、本体だけでも 128m あります。もともとは高さ 153m だったのを、台座下の丘を造成して新たな台座を下に追加、ややチートとも思える手法で現在の高さになりました。小高い丘の上に立てられており、アプローチは階段。ふもとから巨大な姿が見えているのに、階段を上がれども上がれどもなかなかたどり着けないという、遠近法が当てはまらない巨像です。

東南アジアの仏教大国ミャンマー

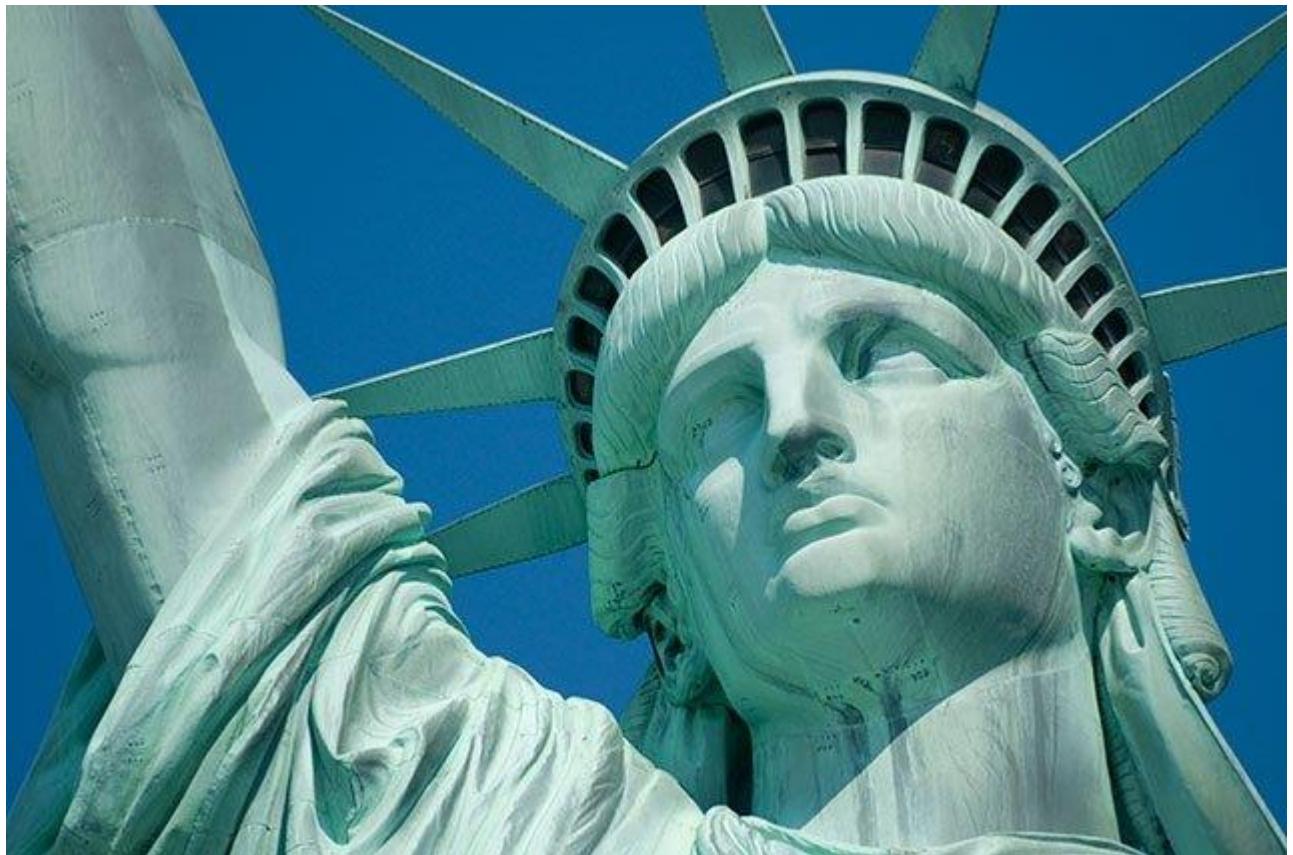


高いだけが巨像じゃない。横に長いミャンマーの巨大寝釈迦仏

東南アジアの仏教大国ミャンマー。敬虔な仏教徒が多く、国内各地にせっせと巨大な仏像を建立して徳を積んでいます。そんなミャンマーには、横に長い巨像があるのです。

『ビルマの豊饒』で寝釈迦仏（涅槃仏）の存在を知った日本人も多いのではないでしょうか。そんなミャンマー（ビルマ）には、20年以上前からずっと建設が続いている巨大な寝釈迦仏があります。ミャンマー南部の町モウラミヤインから車で約30分の山中にある寝釈迦仏の「ウインセントーヤ」は、高さは28mですが全長はなんと183m！像内は3層構造になっていて、人形などで仏教説話を表現したジオラマがあり、未完成ながら見学できます。ただし、像がデカいぶん胎内も広いため、年中蒸し暑いミャンマーでエアコンもない胎内を延々と巡ると疲労困憊です。しかしその苦労が、ミャンマーの人々に「徳を積んだ！」と感じさせるかもしれません。

南北アメリカの巨像：自由の象徴とキリスト教系の巨像



アメリカの象徴「自由の女神像」は南北アメリカで最大の巨像

「みんなニューヨークに行きたいかあ！」と問われれば、「行きたい行きたい」と思いながらも頭に浮かぶのはこの「自由の女神像」でしょう。台座も含めた高さは 93m、本体だけでも 46m あるこの女神像は、右手に高々と松明をかかげた凜々しい姿で、マンハッタン島の南にあるリバティ島にそびえています。

アメリカ人だけでなく世界中から旅行者が集まる観光名所でもあるので、像の見学コースは常に混雑気味。像を外から眺めるだけで構わないのなら、マンハッタン島とリバティ島の更に南にあるスタテン島を結ぶ、24 時間運行で運賃無料のフェリーに乗るのがおすすめです。のんびり進む船の上から、自由の女神像の全景をじっくり堪能できます。

南米で巨像といえば、ブラジル



世界的にも認知度の高い巨像「コルコバードのキリスト像」

南米で巨像といえば、ブラジルにある「コルコバードのキリスト像」でしょう。細く高くそびえる岩山の上に立てられた、両手を左右に広げたキリスト像は高さ 39.6m。数字だけだとそれほどどの高さでもないようすに感じます。しかしその立地からか、見るものに数字よりもはるかに強い印象を与えるのです。

カーニバルで有名なリオ・デ・ジャネイロの象徴とも言えるこのキリスト像。近代的なビル群と美しいビーチや港に浮かぶ多数のヨットから、ファベーラと呼ばれる貧民街まで、貧富を問わず人々の営みのなにもかもを包み込むかのように、リオ・デ・ジャネイロの街を見下ろしています。

ヨーロッパの巨像：戦死者の慰霊碑とアートがでかい



独ソ戦の戦死者を悼む巨像「祖国記念碑」

旧ソビエト連邦諸国には、ソ連時代に立てられた、第二次世界大戦における戦死者を悼む巨像や碑が多数あります。中でも最も高いのが、ウクライナの首都キエフにある、高さ 102m の「祖国記念碑」です。

この巨像は 1981 年、ドイツ軍との戦いで命を落としたソ連軍兵士慰霊のために、第二次世界大戦に関する博物館とあわせて立てられました。当時ウクライナはソビエト連邦の構成国だったため、像が左手で捧げている盾にはソビエト連邦のエンブレムが。これは現在でも残ったままになっています。キエフ・ジュリヤーニュイ国際空港に発着する便の機窓からも、緑の多いキエフ市内にそびえる銀色の巨体がよく見え、際立った存在感を見せています。

イギリス中部に広がるのどかな田園地帯

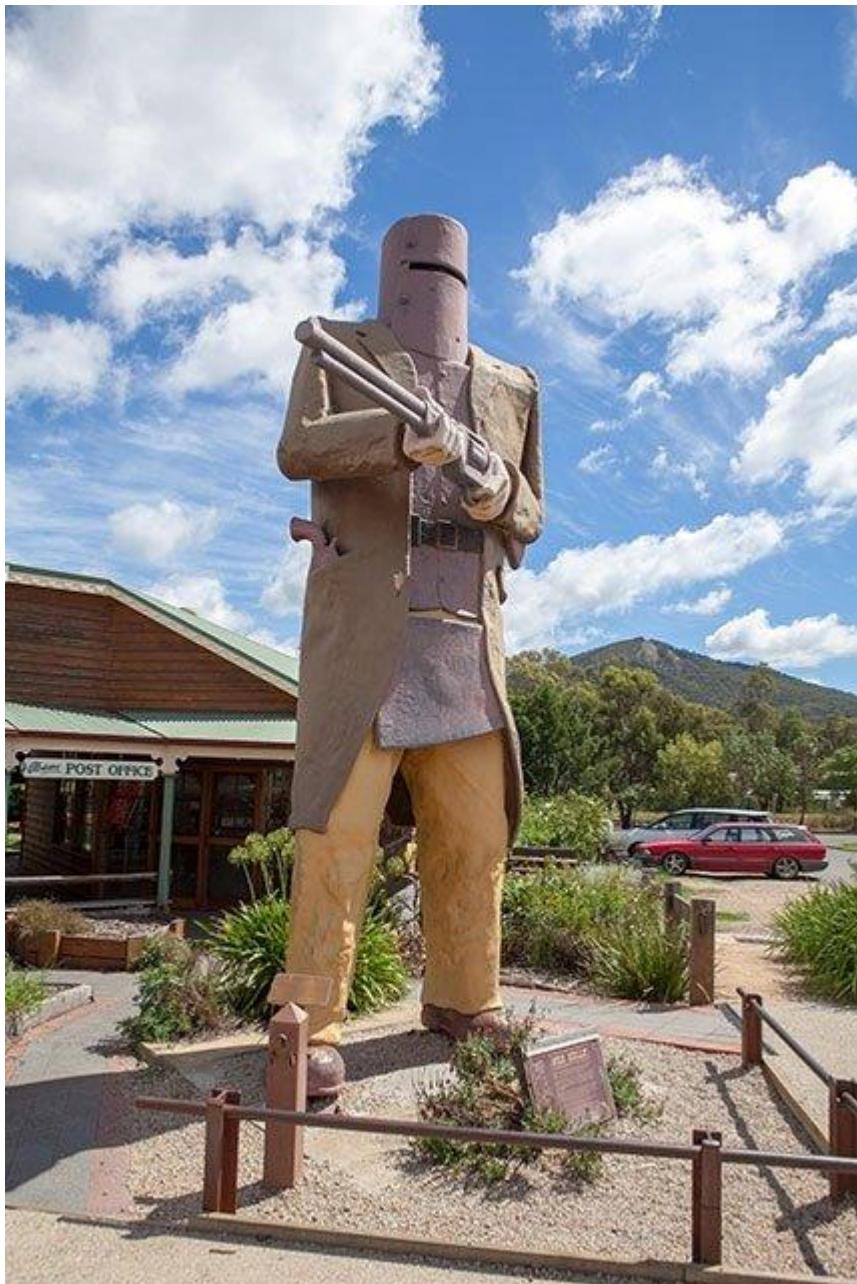


鳥だ！飛行機だ！いや、アートだ！

イギリス中部に広がるのどかな田園地帯を貫く高速道路の脇、小高い丘の上に立てられた、鳥にも飛行機にも見えるモニュメント。「北の天使」と呼ばれる、高さ 20m、幅 50m の巨像です。

アニメに登場するロボット兵士のような色合いと外観。翼のようなものを左右に広げた天使は、イギリス現代芸術界の大家アントニー・マーク・デヴィッド・ゴームリーの作品。1998 年に立てられた当初は賛否両論巻き起こったこの不思議な巨像も、時を経て現在ではすっかり観光名所に。ドライブの途中で立ち寄り、記念撮影をする旅行者がひきもきらないそうです。芸術とはなにか、という深遠なテーマも考えさせられる巨像です。

オセアニアの巨像：大きいものはいいものだ



犯罪者の像としてはおそらく世界最大の「ネッド・ケリー像」

19世紀のオーストラリアで活躍（？）し、いまだ人気が高い義賊の巨像が「ネッド・ケリー像」。高さは6mですが、巨像の少ないオセアニアでは貴重な存在です。

父はもと囚人、母は流刑者の家系、家族や親戚にも犯罪者がいるという19世紀のオーストラリアらしい家庭で、順調に盗賊に育ったネッド・ケリー。貧しいものからは奪わず、強盗を行う際も紳士的に振る舞い、民衆からの人気は高かったそうです。仕事中は手作りの甲冑を着用し、視界を確保するため目の位置に細長いスリットを入れたブリキのバケツのようなヘルメットは、ネッド・ケリーの象徴となりました。もちろんこの巨像も、ヘルメットをかぶった姿です。

デカイ国オーストラリア



デカイ国オーストラリアは地元の名産品もデカくしてしまう

1960 年代から 1980 年代にかけて、オーストラリアでは各地で地元特産の農産物や工業製品の巨像を立てるのが流行し、「ビッグ・シングス」と呼ばれました。国内各地にマンゴー、カシューナッツ、ボルト&ナット、ガマグチ（財布）、ジャンプするワニ、温度計、蛇口、ボーイスカウト帽子、人間の手などの巨像が立てられたのです。

中でも巨大なのが、高さ 17m の「ビッグ・ロブスター」。ロブスター漁がさかんな小さな町キングストン・サウスイーストの中心に立てられています。よく見てみると異様な造形の甲殻類、それを忠実に巨大化してあるので、なかなかに不気味。生き物を可愛らしくデフォルメする日本的な感覚とは異なり、このロブスターをはじめビッグ・シングスのシリーズにあるメリノ羊やコアラなどは、どれもリアル路線。

アフリカの巨像：古代のエジプトから中ほどがなくて現代は独裁者



内情を知ると素直に感心できないアフリカ最大の巨像

アフリカ大陸のほぼ最西端、セネガルの首都ダカールにある「アフリカ・ルネサンス像」は、高さ 50m。アフリカ最大の巨像です。標高 100m の丘の上に立てられているので、50m という数字よりもはるかに高く見える、大迫力の巨像です。

たくましい男性が左腕で子供を高く掲げ、右腕は寄り添う女性の背中に回す、希望や家族愛などさまざまなテーマが思い浮かぶポーズは、アフリカの未来を希望で照らすかのような力強さが感じられます。しかしながら、建設を主導した当時の大統領に入場料収益の 35%が支払われる契約になっていたり、建設を北朝鮮の業者が担当したりと、ダークな小ネタに事欠かない巨像となっています。

ピラミッドを建設した古代エジプト文明



紀元前から存在する驚異の巨像「ギザの大スフィンクス」

いくつもの巨大なピラミッドを建設した古代エジプト文明が作った、「ギザの大スフィンクス」。王の顔とライオンの体を持つとされる高さ 20m のキメラは、おそらく世界最古級の巨像でしょう。

ひとつの巨大な岩から掘り出されたこの巨像は、圧倒的な存在感で、ピラミッドのそばにその姿を横たえています。当時の道具を使い 100 人の石工が従事するとして、完成までに 3 年の工事期間が必要となるとか。古代エジプト王の権力と財力がどれほどのものだったのか、想像もつきません。まさに歴史のロマンを感じさせてくれる巨像と言えるでしょう。